

平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査（概要）

1. 調査のねらい等

【本年度調査の概要】

悉皆調査により、小学校は20,658校（全体の98.3%）、児童1,090,132人、中学校は10,481校（全体の94.9%）、生徒1,055,154人が参加。

【本年度調査の主な視点等】

本年度は、国・地方公共団体の取組、各地域・学校でのPDCAサイクルの円滑な実施に向けて、特に、

- 幼少期の多様な運動経験
- 体育・保健体育の授業の充実
- 部活動の充実
- 家庭や地域でもっと運動をするようになる条件整備
- 生涯にわたって運動やスポーツをしようとする意欲の根拠資料を確保することを視点において調査。

⇒スポーツ基本計画（平成24年3月30日）での「昭和60年頃の水準を上回ること」の達成とともに、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会開催に向けて広く子供たちに運動やスポーツへの関心喚起、実施を促すことにつながることも期待。

【上記視点による本年度調査の特徴的項目、初調査の項目】

学校における指導内容・方法・体制に係る児童生徒の意識、学校の取組等について下記の項目等を調査分析。

〔児童生徒の運動・スポーツの実施状況等〕

- 幼少期の運動経験について
- 体育・保健体育授業の各領域別「できたか・楽しかった・もう一度やりたいか」
- 体育・保健体育の授業において「できなかったことができるようになった」きっかけ
- 放課後や休日に運動を行っている場所・行ってみたい場所
- 家の人からの運動やスポーツのすすめ

〔学校における取組〕

- 体育・保健体育の授業で努力を要する児童がいる場合に行う取組
- 体育・保健体育授業の各領域別「指導のしやすさ・研修の機会」

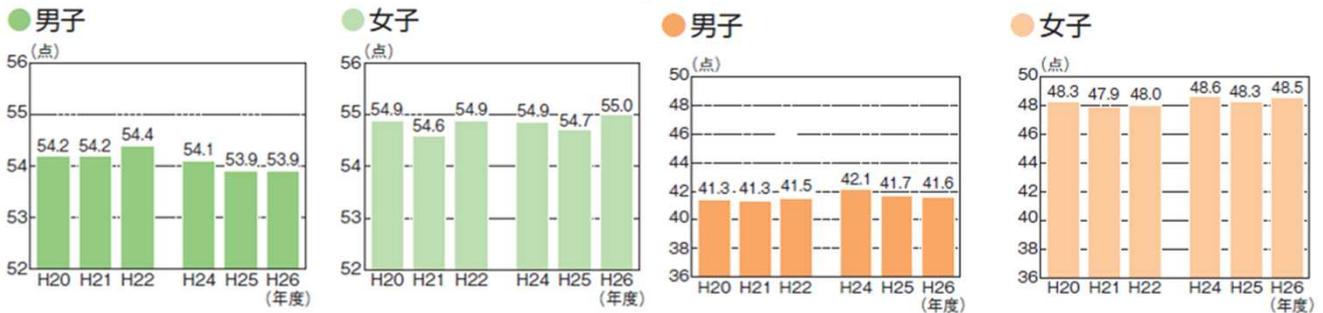
2. 体力、運動やスポーツに対する意識

(1) 体力合計点の推移

体力合計点は、小学校・中学校・男女すべてにおいて、過去の調査と比較して大きな変化は見られなかったが、小学校女子においては、調査を開始した平成20年度以降、最も高かった。

【小学校】

【中学校】

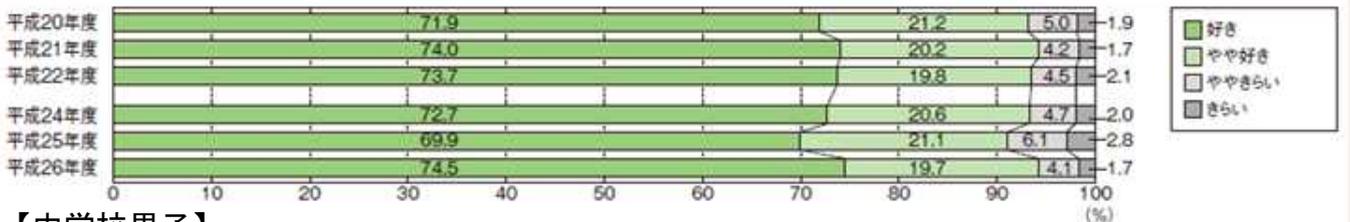


(2) 運動やスポーツの好き・きらいの推移

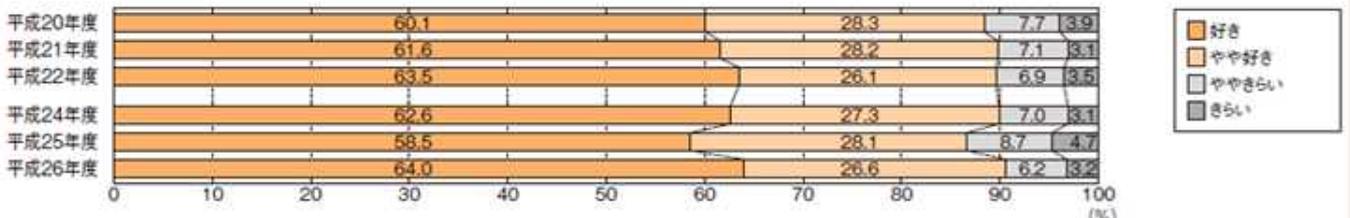
運動やスポーツの好き・きらいでは、小学校男女、中学校男女のすべてにおいて、昨年度と比較して高かった。

特に小中学校男子で、運動やスポーツが好きと回答した割合は、平成20年度以降で最も高かった。

【小学校男子】



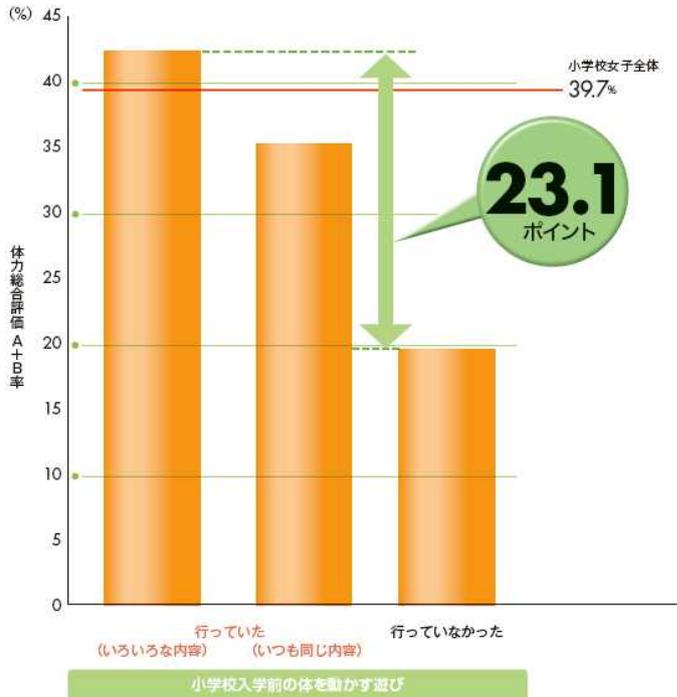
【中学校男子】



3. 本年度調査結果を踏まえて各地域・学校での体育・健康に関する指導の改善で特に参考とされることが望まれる5事項

下記のような調査結果を生かして、学校、学級の児童生徒の状況分析のうえ、学校全体で体育・健康に関する指導の改善を図ることを期待。

① 幼少期の多様な運動経験と、体力合計点との関係（小学校女子の例）

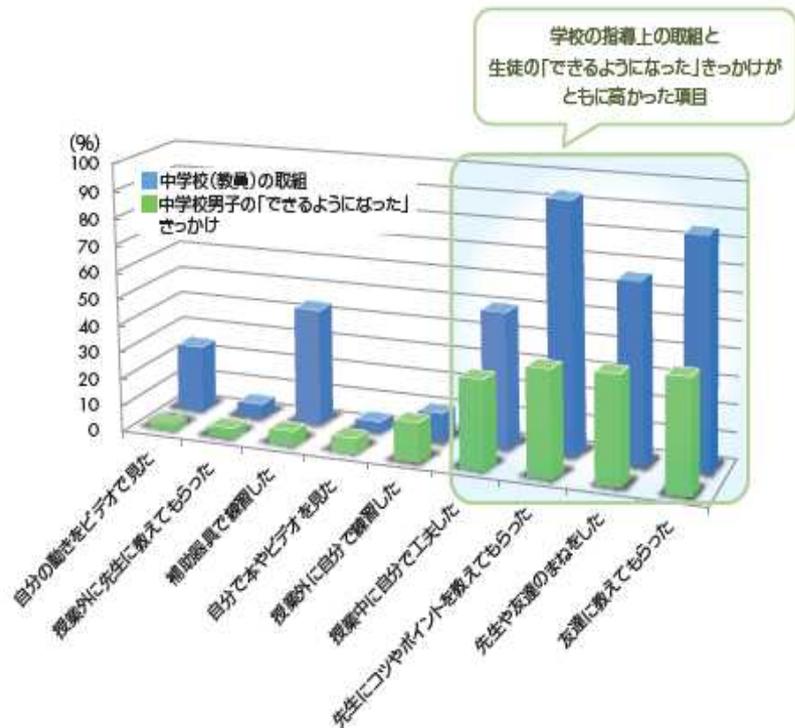


小学校入学前にいろいろな体を動かす遊びをしていた小学校女子は、していなかった児童に比べて体力総合評価A+B率が23.1ポイント高かった。

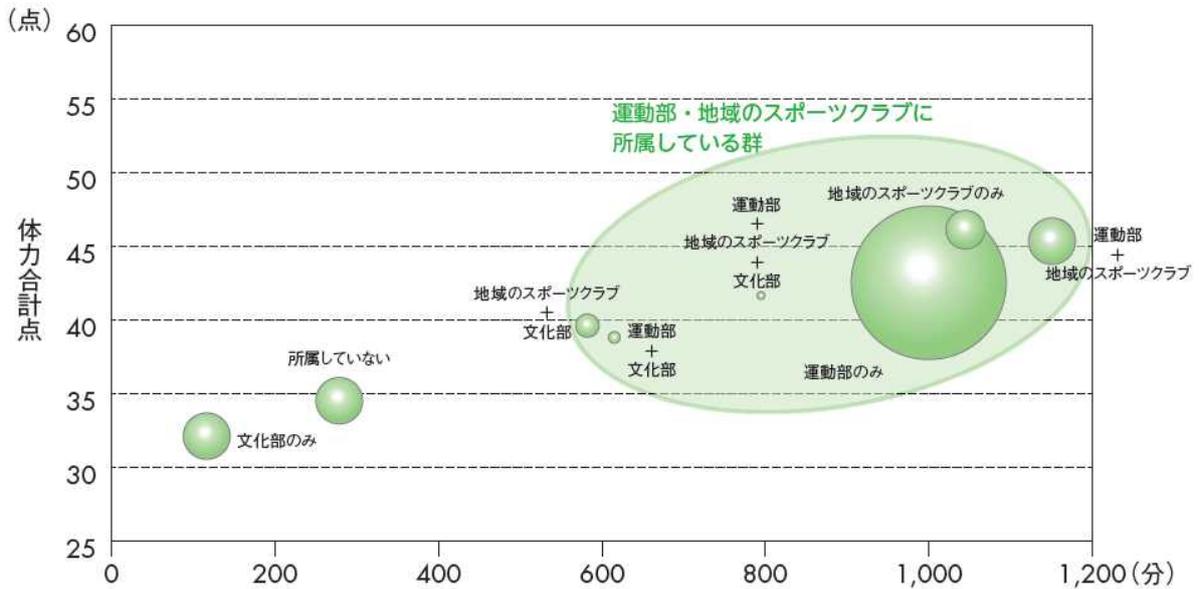
② 体育・保健体育の授業でできるようになったきっかけと、学校の取組

(中学校男子の例)

保健体育の授業で中学校男子が「できなかったことができるようになったきっかけ」の上位4項目は、保健体育の授業で努力を要する生徒がいる場合の学校の取組においても上位を占めた。



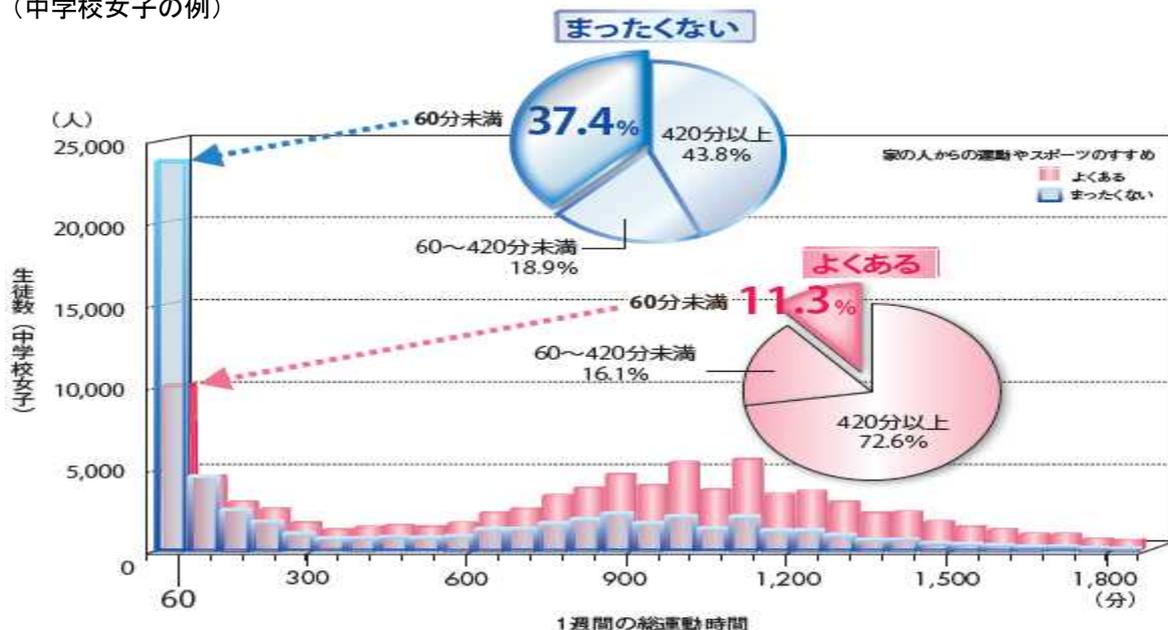
③ 運動部活動やスポーツクラブへの所属と、体力合計点との関係(中学校男子の例)



運動部活動や、地域のスポーツクラブに所属している群は、1週間の総運動時間が長く、体力合計点が高かった。

④ 家の人からの運動やスポーツのすすめと、1週間の総運動時間との関係

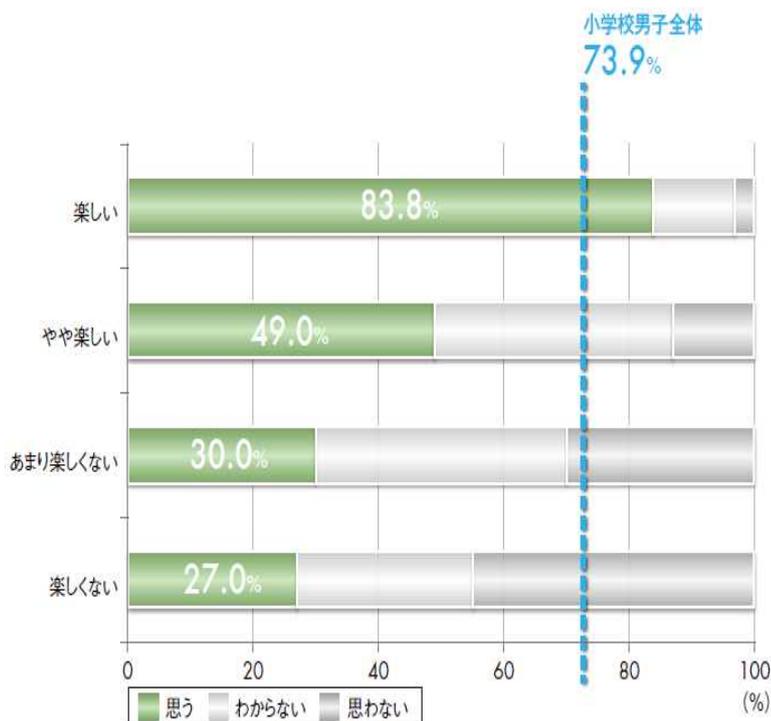
(中学校女子の例)



家の人から運動やスポーツのすすめがあるほど、1週間の総運動時間が60分未満の比率が低く、420分以上の比率が高かった。

⇒家の人から運動やスポーツのすすめがあるほど、1週間の総運動時間が長い生徒の比率が高かった。

⑤ 体育の授業に対する意識と、卒業後も自主的に運動やスポーツをしようと思う割合との関係(小学校男子の例)



卒業後も自主的に運動やスポーツをしようと思う割合は、体育の授業に肯定的な意識をもつほどその割合が高い。

3. 各地域の状況

①各都道府県別の体力合計点(平均)の最大値と最小値の差

昨年度と比較すると小学校男女、中学校男女のすべてにおいて、差が縮小

[小学男子]平成21年度 6.20 ⇒ 平成25年度 5.75 ⇒ 平成26年度 5.65

[小学女子]平成21年度 6.83 ⇒ 平成25年度 7.13 ⇒ 平成26年度 6.97

[中学男子]平成21年度 6.52 ⇒ 平成25年度 6.19 ⇒ 平成26年度 6.14

[中学女子]平成21年度 9.36 ⇒ 平成25年度 9.18 ⇒ 平成26年度 8.98

② 前年度調査と比較して、実技調査結果が大きく向上した県の実績

◇小学校：群馬県

○体力向上プランの作成・実施

- ・調査結果に基づくそれぞれの学校のプランの策定・実施

○モデル校における体力向上の取組の実施

- ・学校独自の運動DVDの作成、各家庭への配布 等

◇中学校：奈良県

○体力向上推進連絡会の設置と各種事業の実施

- ・「夏休み大和っ子スポーツウィーク」の開催

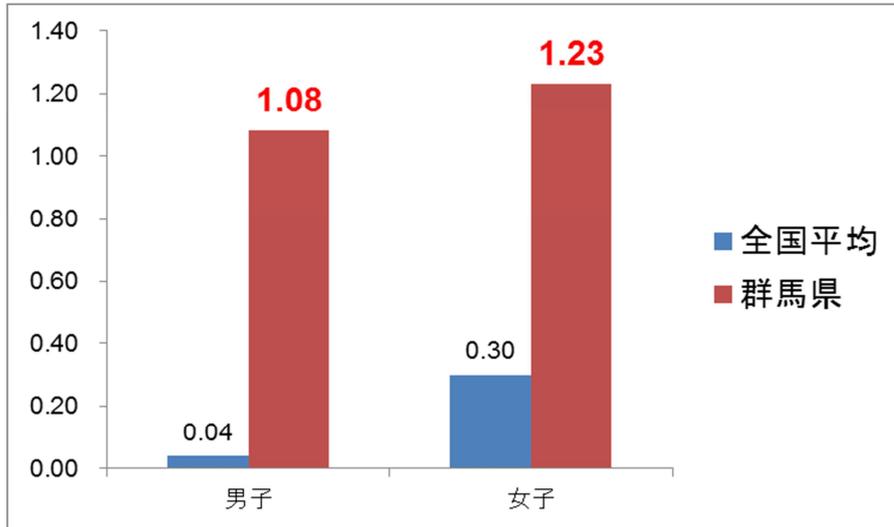
○中学生体力向上支援事業

- ・授業や運動部活動で活用できる「体力を高める運動」について地域の大学と連携し開発

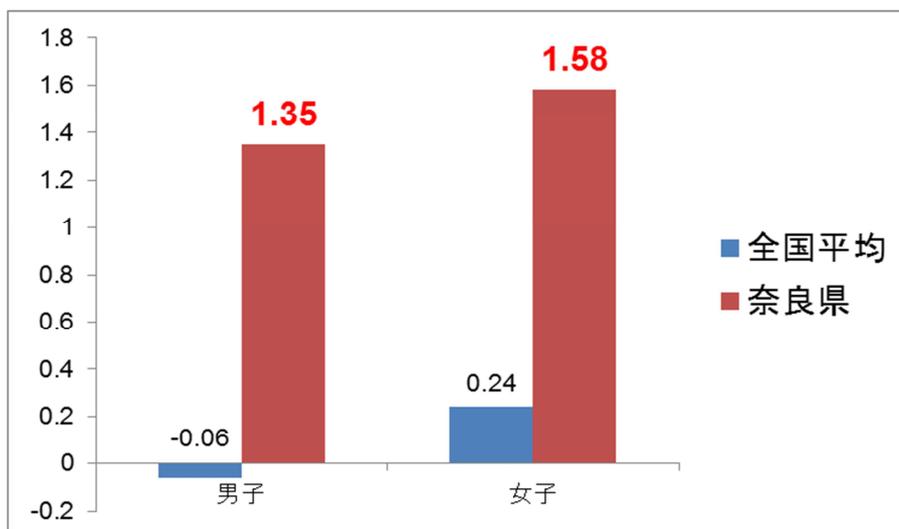
(参考) 各都道府県の状況の例

- 平成25年度調査結果と平成26年度調査結果とを比較して、体力合計点が最も向上した県
(平成26年度体力合計点－平成25年度体力合計点)

【小学校】



【中学校】

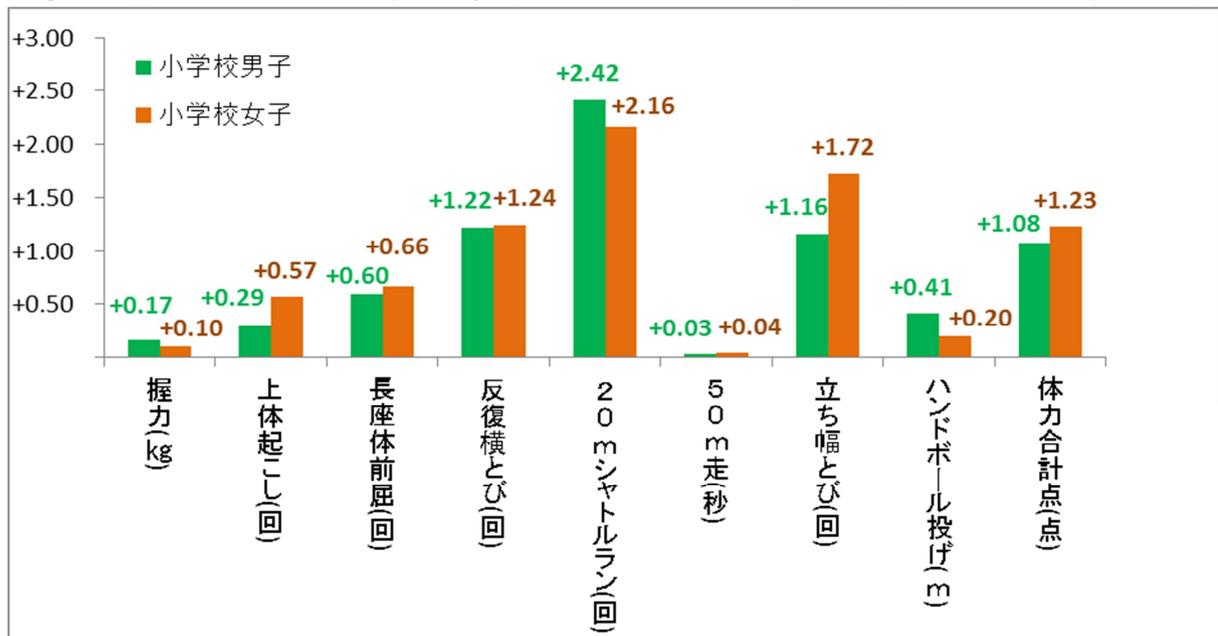


都道府県の例【群馬県】

群馬県の課題

- 平成24・25年度調査において、中学校では男女ともに、ほとんどの種目で全国平均値を上回るものの、小学校では男女ともに、ほとんどの種目で全国平均値を下回っている。
- 調査結果を踏まえた取組が少ない。

◇実技調査における前年度結果との差（平成26年度平均値－平成25年度平均値）



群馬県の体力向上の主な取組

「ぐんまの子どもの体力向上推進事業」の推進

(1) 体力向上プランの作成・実施

県内すべての小学校・中学校において、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果等に基づく自校の体力向上プランを作成し、年間を通して体力向上に係る取組を実施する。

(2) モデル校における体力向上の取組の実施

○体力向上推進校を選出。

○地域人材等を活用して、学校の教育活動全体を通じた体力向上の取組の実施。

モデル校の取組例（伊勢崎市立宮郷第二小学校）

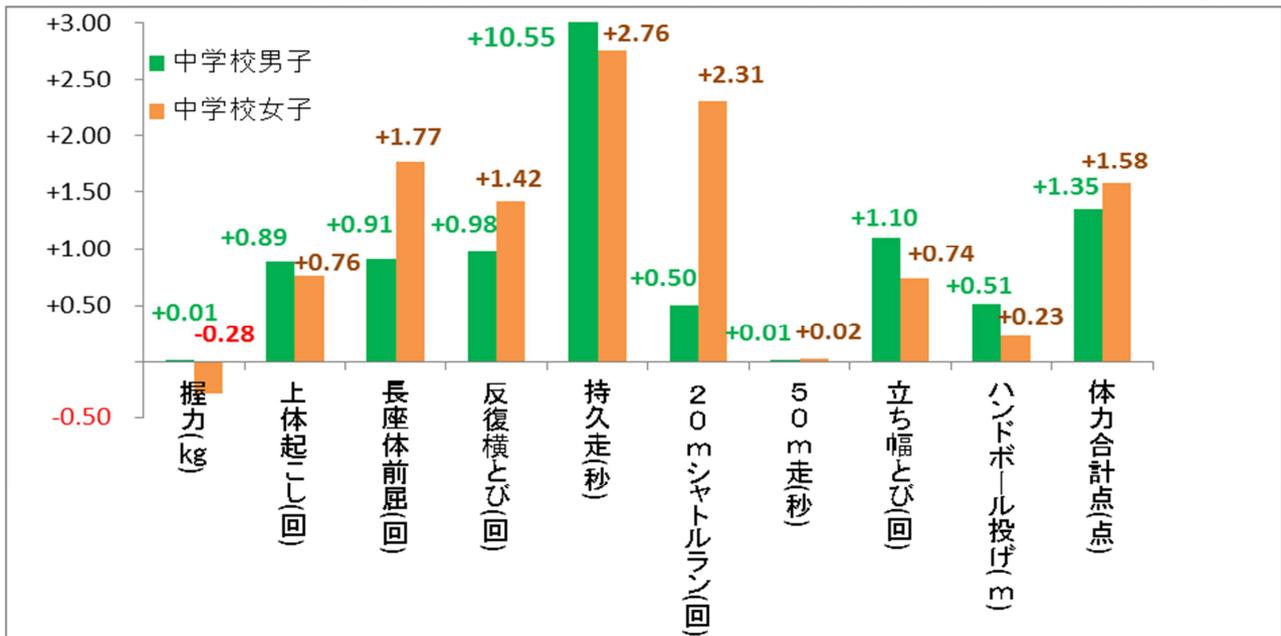
- ・学校独自の運動DVDを作成し、各家庭に配布予定。
- ・体育便りを毎月発行し、家庭での運動に対する意識を高める。
- ・「元気アップカード」を作成し、児童の健康や運動に対する意識を高める。

都道府県の例【奈良県】

奈良県の課題

- 平成25年度調査において、小学校は全国平均であったが、中学校は全国平均を下回っていた。

◇実技調査における前年度結果との差（平成26年度平均値－平成25年度平均値）



奈良県の体力向上の主な取組

(1) 体力向上推進計画の作成等

各学校に対し、毎日運動する時間の確保や一校一運動の実施などを含む「体力向上推進計画」の作成を指示。また、体力低下原因を探り、向上に向けての取組を推進するため「体力向上推進プランニングシート」の作成を推奨。

(2) 体力向上支援プログラムの作成

「元気な大和っ子をはぐくむ体力向上支援プログラム（DVD教材を含む）」及び「体力向上指導マニュアル」を作成し、各学校での活用を促す。

(3) 体力向上推進連絡会の設置と各種事業の実施等

- 小学校に対する新体力テストの測定支援
- 運動の特性や面白さが体感できる機会として「夏休み大和っ子スポーツウィーク」の開催（小学生水泳教室・小学生陸上競技記録会・学童水泳記録会・親子ソフトテニス教室・小学生空手道教室・小学生柔道教室）
- 「外遊び、みんなでチャレンジ」として、児童が仲間とともにチャレンジできる運動を県ホームページに紹介し、各学校の取組を促進

(4) 中学生体力向上支援事業

中学生の体力向上を目指して、地域の大学と連携し、授業や運動部活動で活用できる「体力を高める運動マニュアル」を作成・配布。

また、各学校に対して、体力向上に係る教職員の意識や指導力を高めるために、指導主事等の派遣や中学校体育研究会と連携した授業研究等の取組を進めている。

平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果【概要】

I 調査の概要

1 調査実施期間

(1) 児童生徒に対する調査

①実技調査実施期間……………平成26年4月から7月末までの期間

②児童生徒質問紙調査実施期間……………調査票到着から7月末までの期間

(2) 学校質問紙調査実施期間……………調査票到着から7月末までの期間

(3) 教育委員会質問紙調査実施期間……………調査票到着から7月末までの期間

2 調査対象

- ・小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年
 - ・中学校第2学年、中等教育学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年
- ただし、特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒については、その障害の状況等を考慮して、参加の是非を判断。

3 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

- ・実技に関する調査

[小学校、中学校8種目]

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、

※持久走（男子1500m 女子1000m）、20m シャトルラン、

50m 走、立ち幅とび、ボール投げ（小学校：ソフトボール、中学校：ハンドボール）

※小学校は20m シャトルランのみの実施

中学校は持久走か20m シャトルランのどちらかを選択して実施

- ・質問紙調査（運動習慣等）

(2) 学校に対する調査

- ・質問紙調査（子供の体力向上に係る学校の取組等）

(3) 教育委員会に対する調査

- ・質問紙調査（子供の体力向上に係る施策等）

4 調査学校数、児童生徒数

- ・調査学校数 31,139校（小学校：20,658校 中学校：10,481校）

【小学校調査】※参加学校数及び学校総数には特別支援学校を含む

	参加学校数 (A) ※	学校総数 (B) ※	参加率 (A/B)
小学校	20,658	21,012	98.3%

【中学校調査】※参加学校数及び学校総数には特別支援学校を含む

	参加学校数 (A) ※	学校総数 (B) ※	参加率 (A/B)
中学校・中等教育学校	10,481	11,039	94.9%

- ・調査児童生徒数 約214万人

小学生：約109万人（男子：約56万人、女子：約53万人）
中学生：約105万人（男子：約54万人、女子：約51万人）

II 調査結果の概要

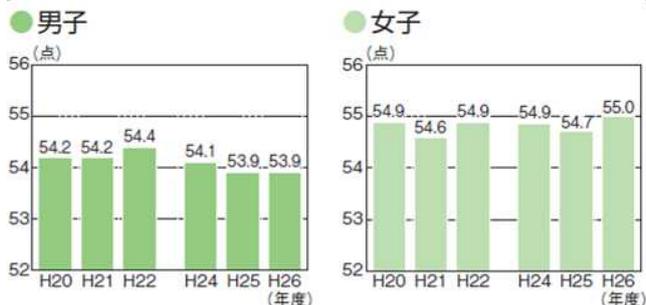
1 今年度の児童生徒の体力、運動習慣、運動やスポーツに対する意識の状況

(1) 体力の状況

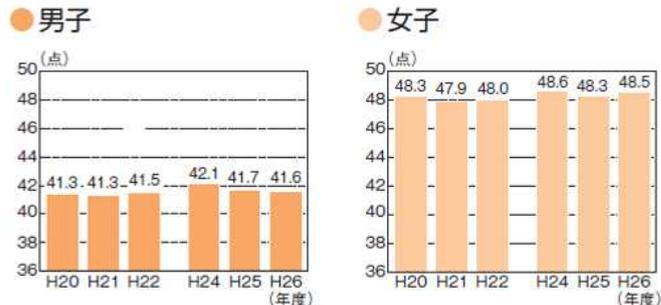
① 体力合計点の推移

体力合計点は、小学校・中学校・男女すべてにおいて、過去の調査と比較して大きな変化は見られなかったが、小学校女子においては、調査を開始した平成20年度以降、最も高かった。

【小学校】



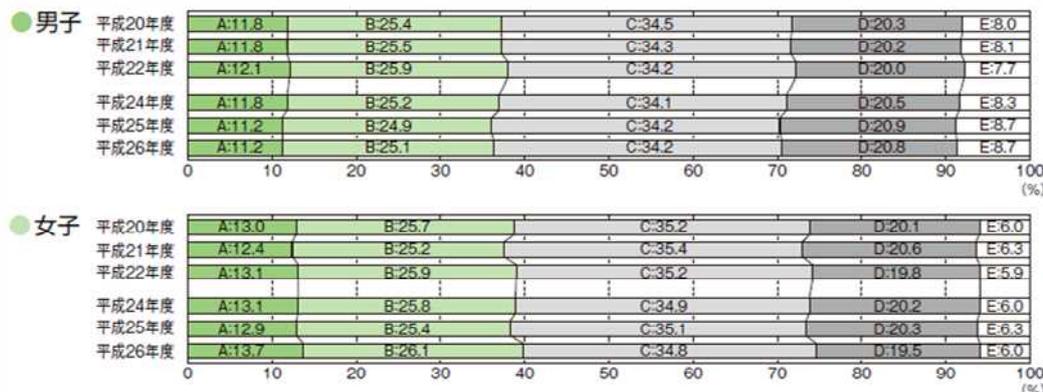
【中学校】



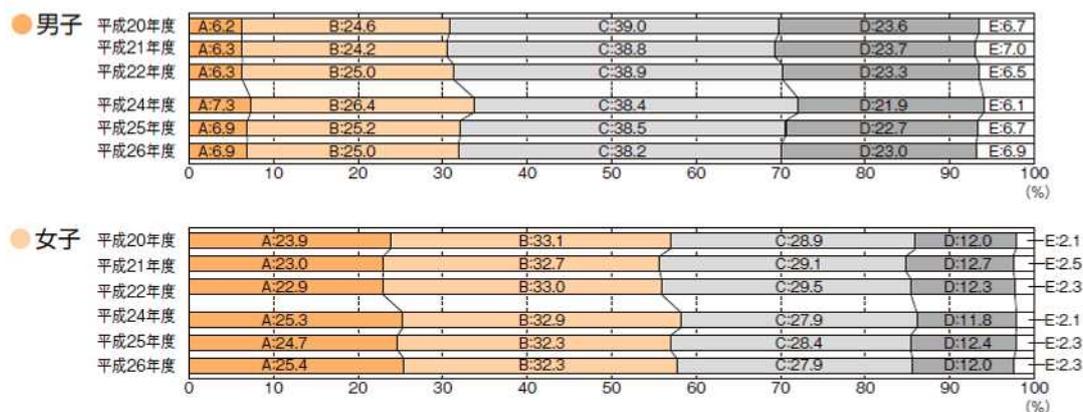
② 体力総合評価の推移

体力総合評価は昨年度結果と比べて、小学校男・女、中学校男・女で大きな変化は見られなかった。小学校女子のA B - D E値は平成20年度以降、最も大きな値であった。

【小学校】



【中学校】



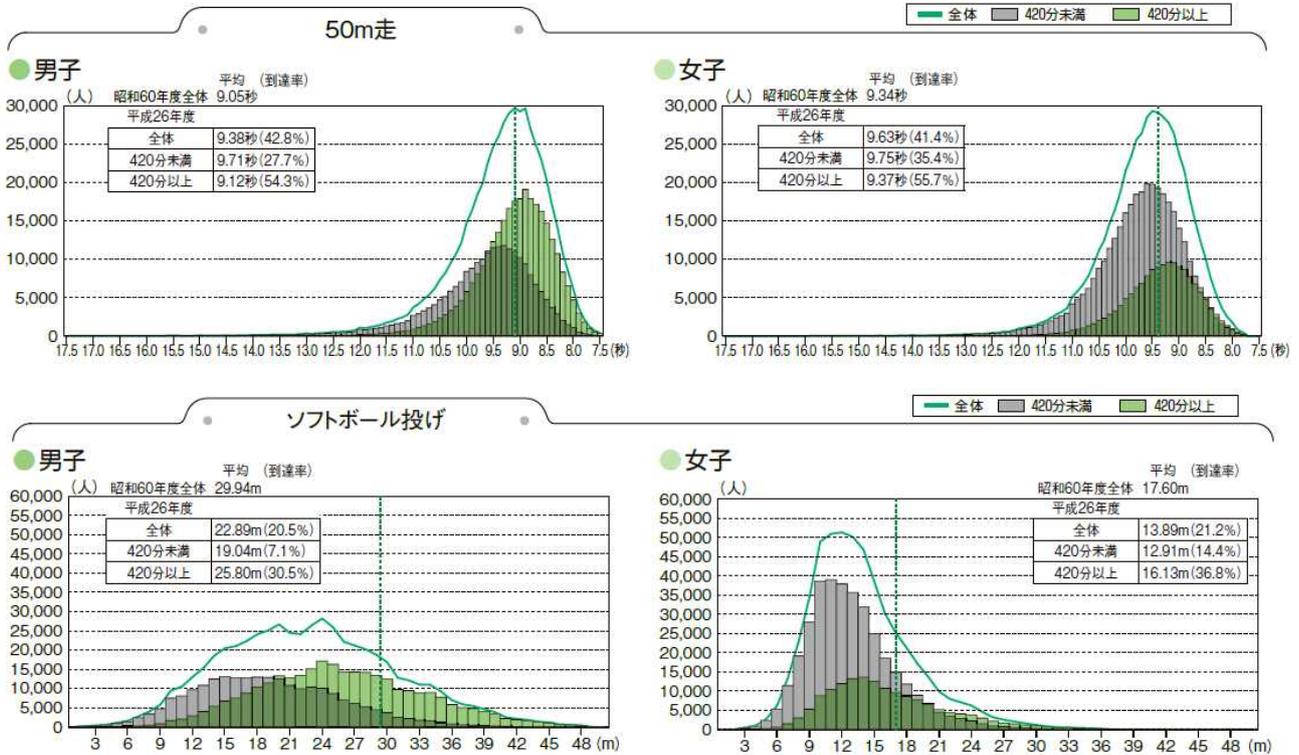
◇参考◇

新体力テストの評価では、5段階の総合評価の「(A+B) - (D+E) 値」を指標として活用することが効果的である。「D段階」と「E段階」が減少し、「A段階」と「B段階」が増加することで、学校における体力・運動能力の向上の成果を評価することができる。

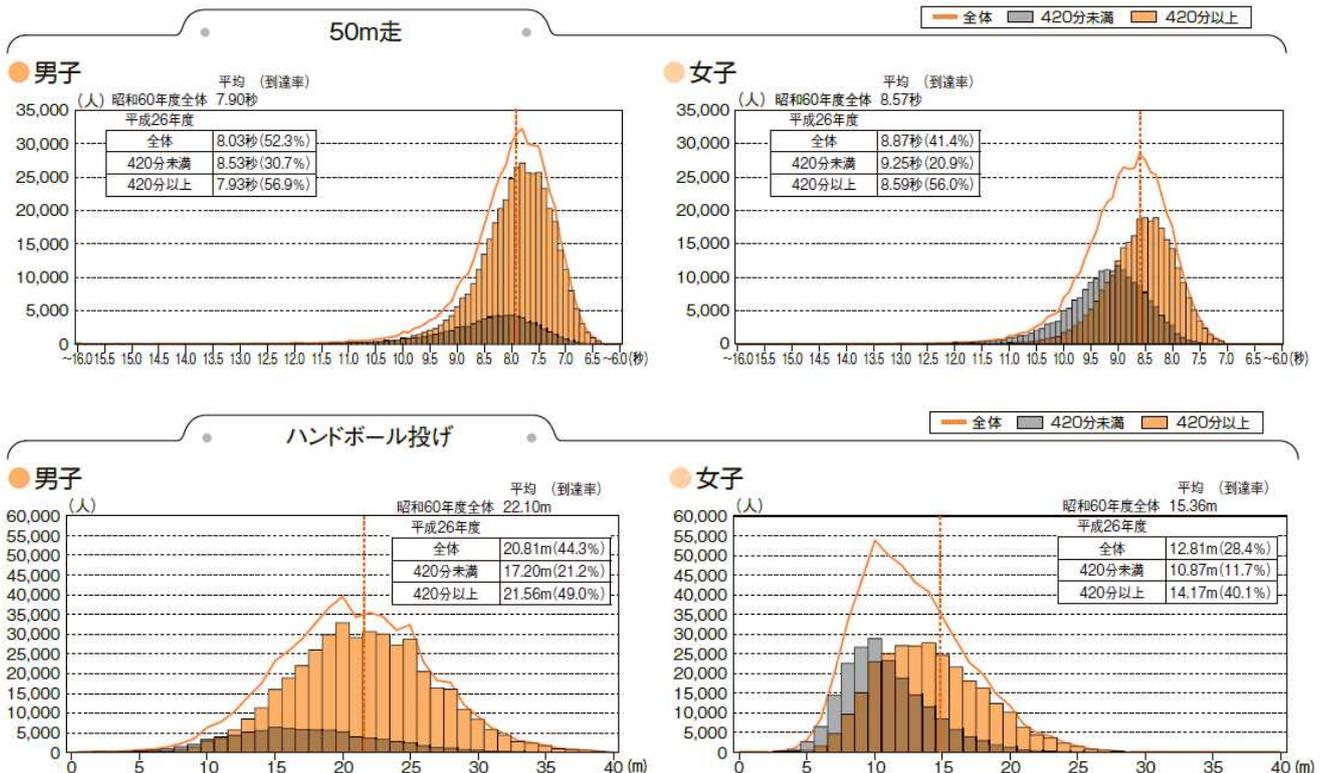
③ 1週間の総運動時間からみた昭和60年度水準の到達率

昭和60年度と比較可能な種目すべてにおいて、男女とも、1週間の総運動時間が420分以上の児童生徒は420分未満の児童生徒に比べて、昭和60年度水準到達率（各種目の昭和60年度平均値に到達した児童生徒の割合）が高かった。

【小学校】 ※グラフ中の縦の点線は昭和60年度の平均値、表中の到達率は昭和60年度水準到達率



【中学校】 ※グラフ中の縦の点線は昭和60年度の平均値、表中の到達率は昭和60年度水準到達率

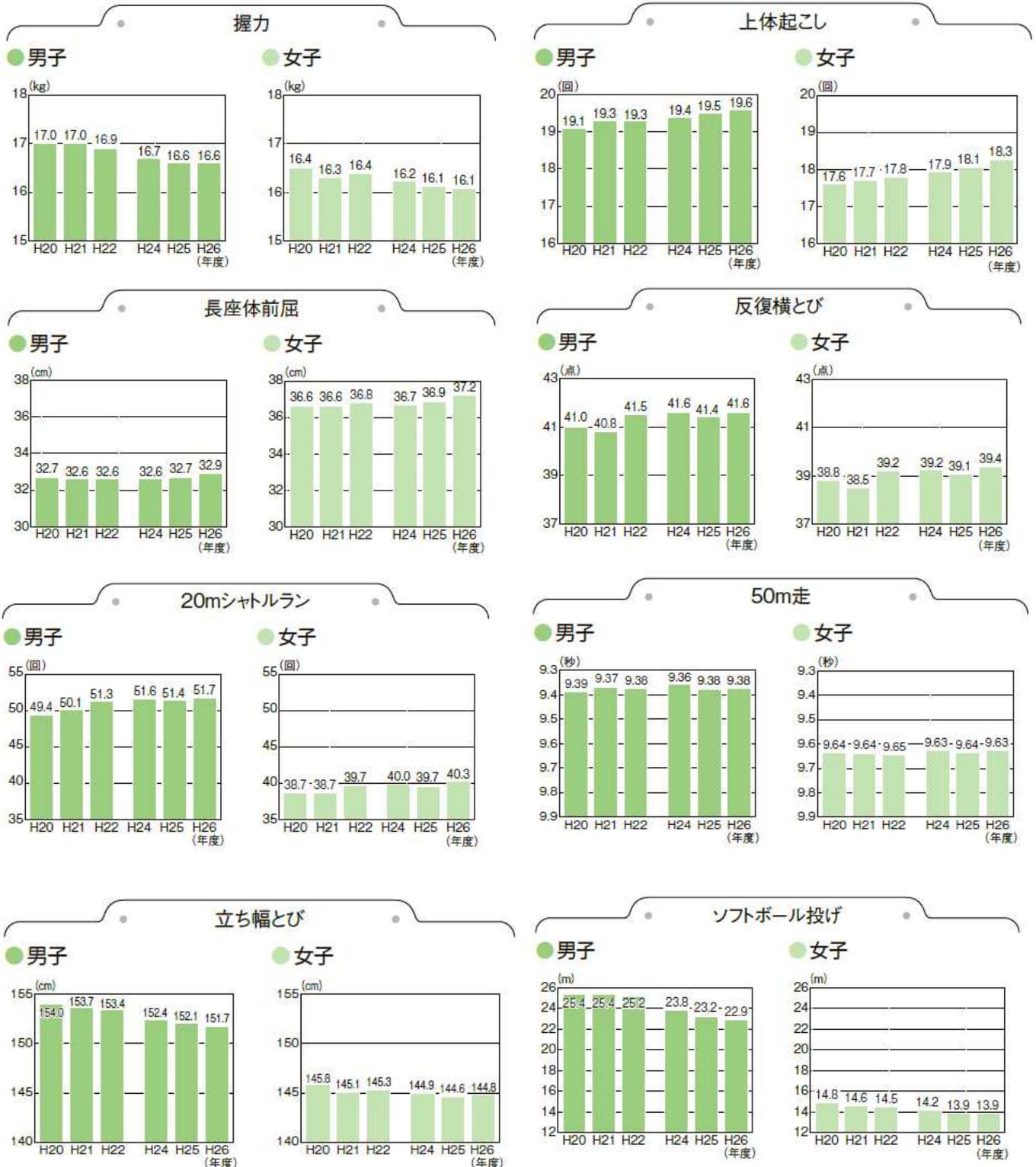


④実技調査における各種目の状況

【小学校】

男子は、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルランで、平成20年度以降で最も高く、握力、立ち幅とび、ソフトボール投げで最も低い値であった。

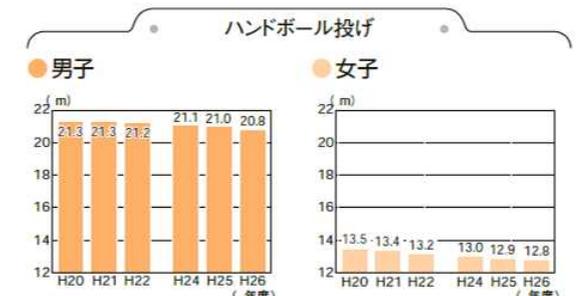
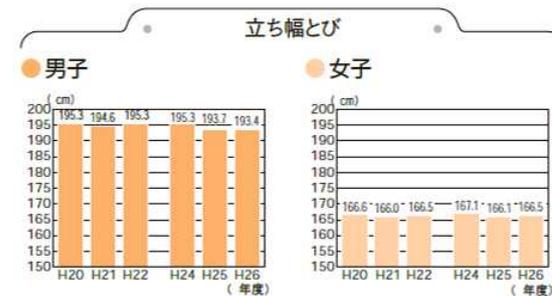
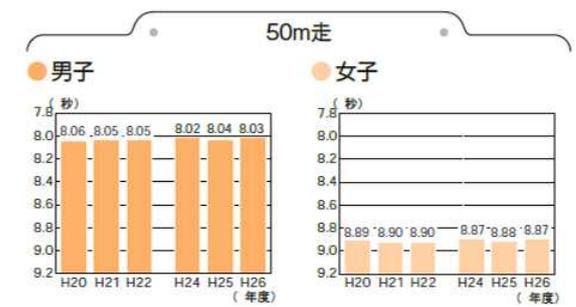
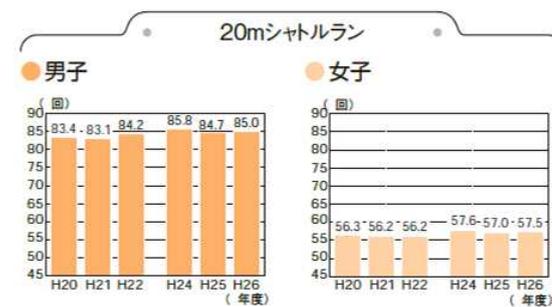
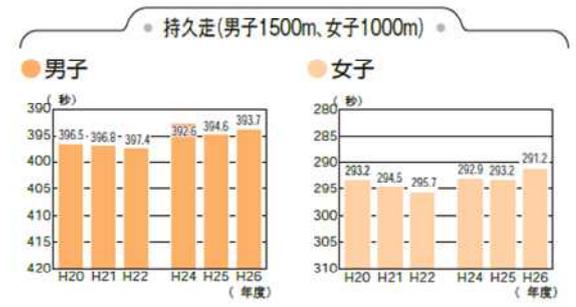
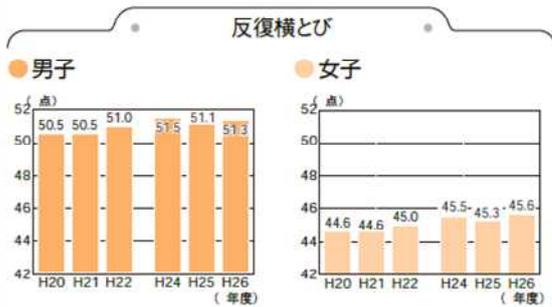
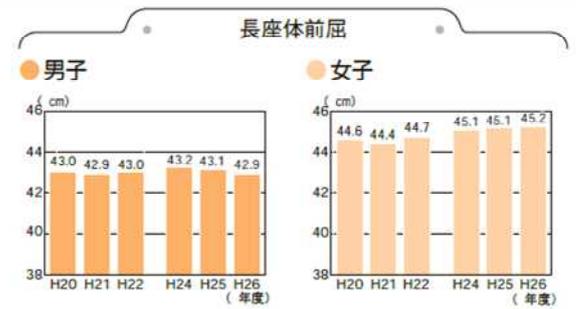
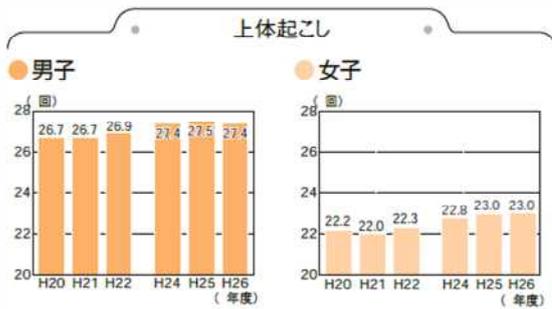
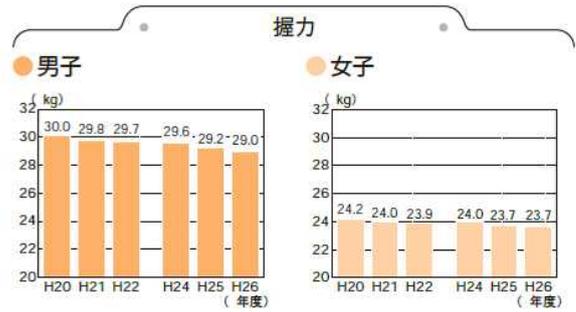
女子は上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走で、平成20年度以降で最も高く、握力、ソフトボール投げで最も低い値であった。



【中学校】

男子は、握力、長座体前屈、立ち幅とび、ハンドボール投げで、平成20年度以降で最も低かった。

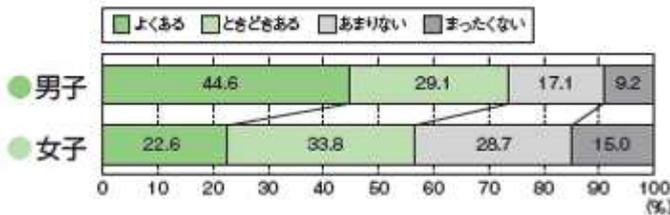
女子は、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走、50m走で、平成20年度以降で最も高く、握力、ハンドボール投げで、最も低かった。



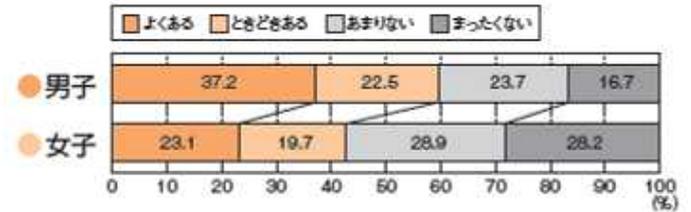
⑤ボール投げの記録とボール投げをする習慣との関係

放課後や休日にボールを投げる運動を行うことが「よくある」と回答しているのは、小学校男子で44.6%、女子で22.6%、中学校男子で37.2%、女子で23.1%であった。

【小学校】



【中学校】



ボール投げの全国平均値を超えるのは、小学校男女ではボールを投げる運動を行うことが「よくある」と回答したもののみであり、中学校男女では「よくある」「ときどきある」と回答したものであった。

【小学校】



【中学校】

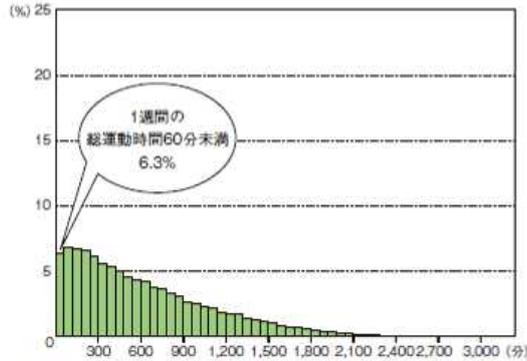


(2) 運動習慣の状況

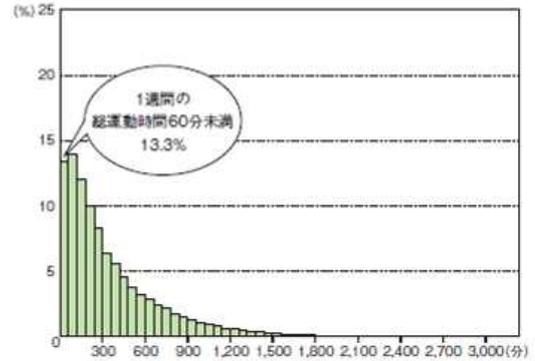
① 1週間の総運動時間の分布

1週間の総運動時間では、中学校で運動する生徒としない生徒の二極化がみられた。女子については、小学校で13.3%、中学校で21.8%の児童生徒が1週間の総運動時間が60分未満であった。

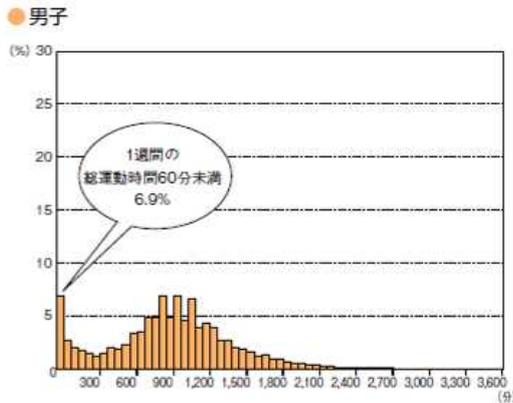
【小学校】 ● 男子



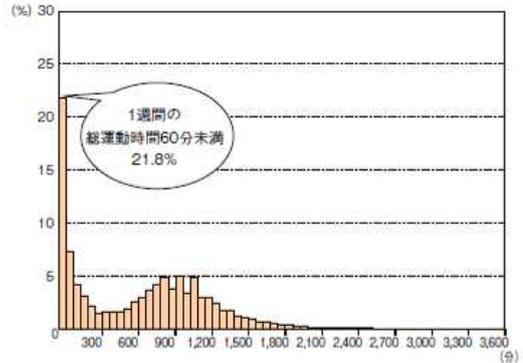
● 女子



【中学校】 ● 男子



● 女子



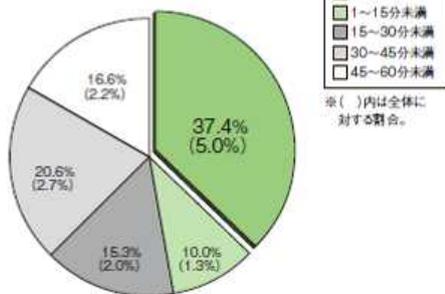
② 1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の運動時間の内訳

1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の運動時間の内訳をみると、総運動時間が0分なのが、小学校女子では5.0%、中学校女子では14.8%だった。

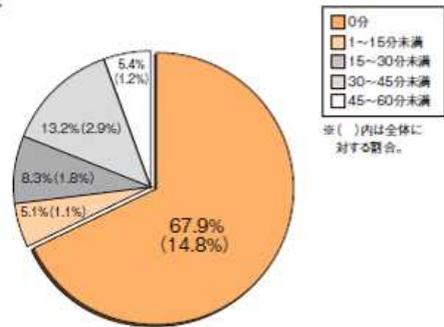
【小学校】

【中学校】

● 女子



● 女子



◇ 参考 ◇

運動時間算出の根拠となった質問の表記を、平成26年度より変更している。

平成25年度まで： ふだんの1週間について聞きます。学校、学校外で1日の運動やスポーツをしている時間を合計すると、おおよそどのくらいしていますか。

平成26年度から： ふだんの1週間について聞きます。学校の体育の授業以外で、運動（**体を動かす遊びをふくむ**）やスポーツを、合計で1日おおよそ何分くらいしていますか。

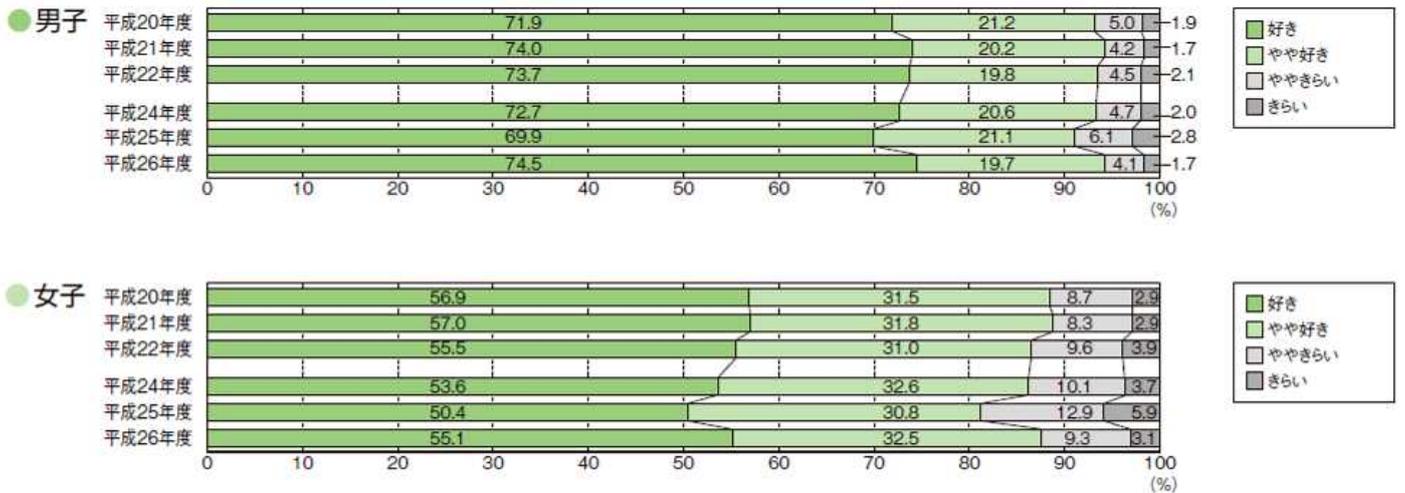
(3) 運動やスポーツに対する意識の状況

① 運動やスポーツの好き・きらいの推移

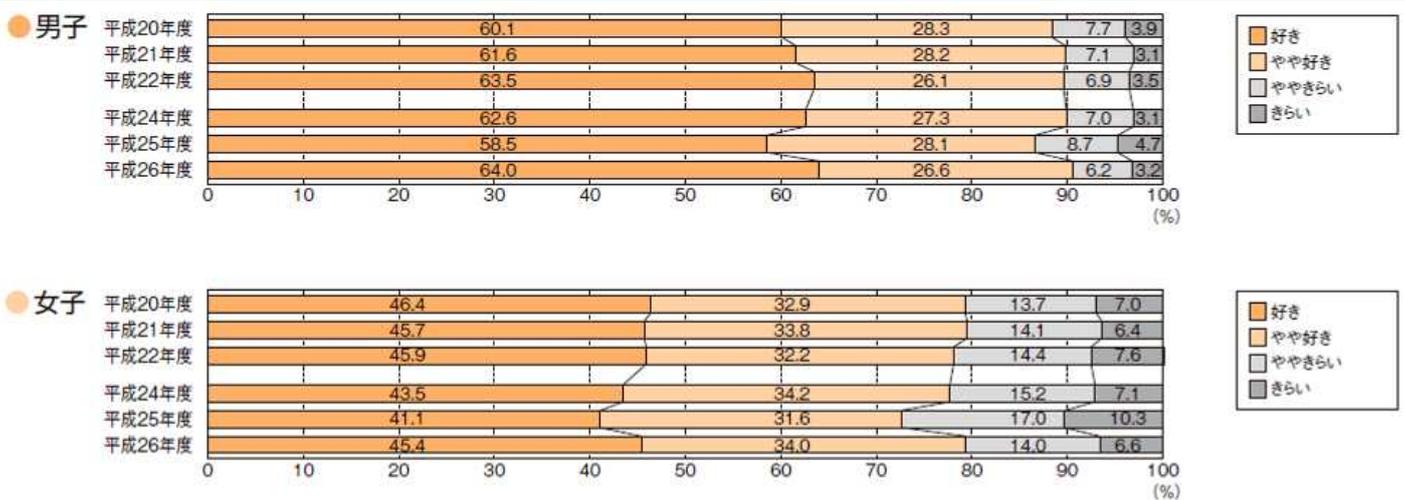
運動やスポーツの好き・きらいでは、小学校男女、中学校男女のすべてにおいて、昨年度と比較して、好きと回答した割合が高かった。

特に小中学校男子で、運動やスポーツが好きと回答した割合は、平成20年度以降で最も高かった。

小学校



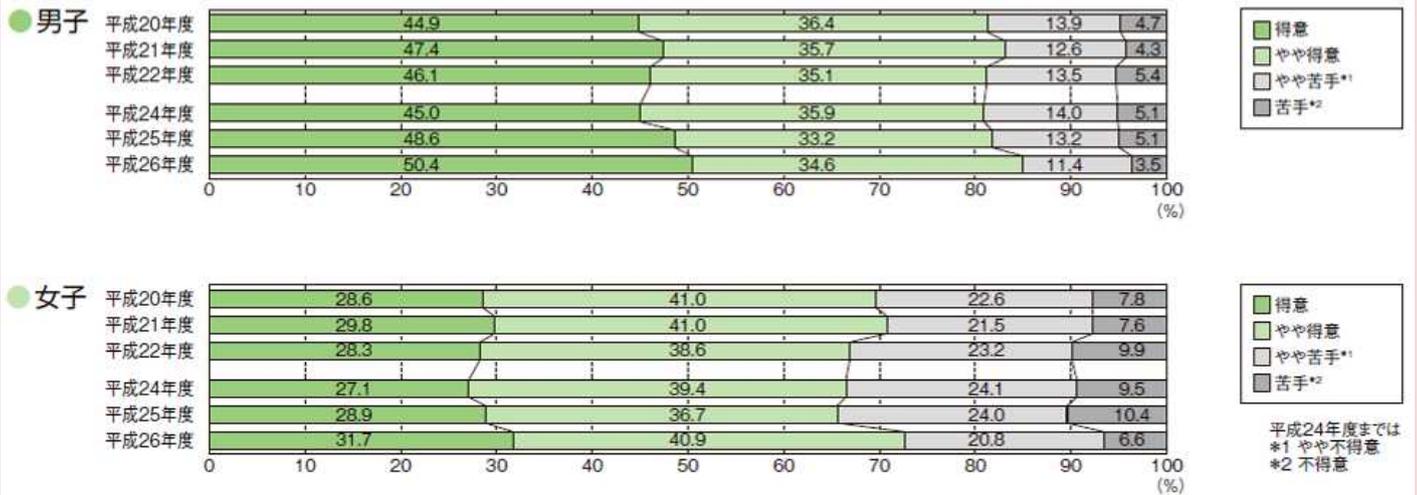
中学校



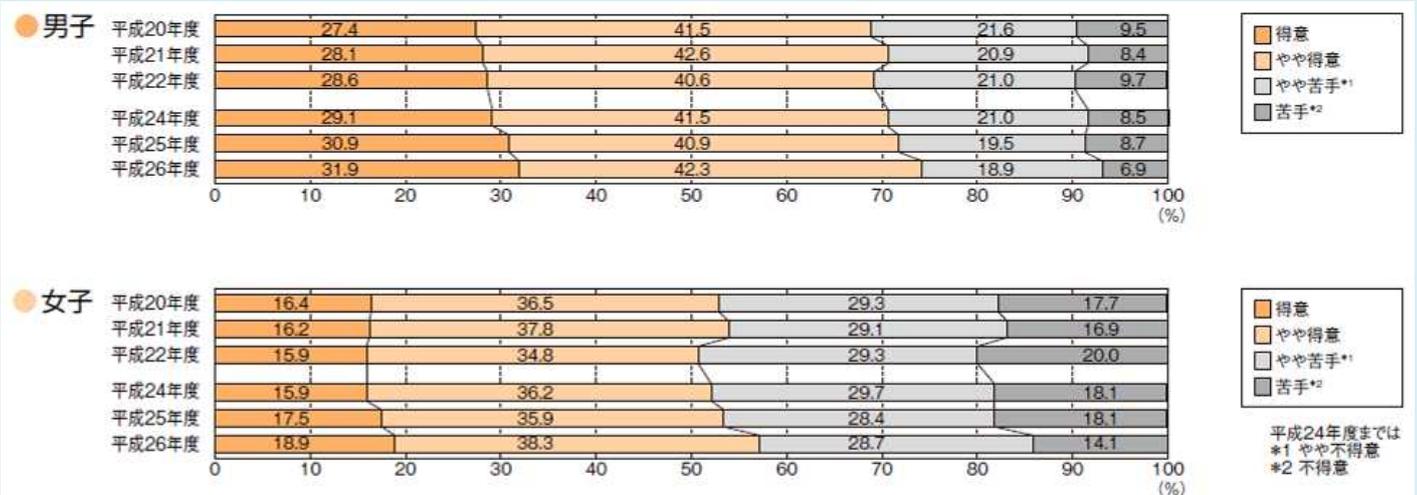
②運動やスポーツの得意・苦手の推移

運動やスポーツを得意だと回答した割合は、小学校男女、中学校男女のすべてにおいて、平成20年度以降で最も高く、苦手だと回答した割合は最も低かった。

小学校



中学校



2 今年度の質問紙調査からわかったこと

(1) 幼少期の多様な運動経験が体力・運動能力に及ぼす影響

児童に対して、小学校入学前の運動習慣について聞いた質問項目の結果と、現在の体力・運動能力、および運動に対する意識との関係等を示した。

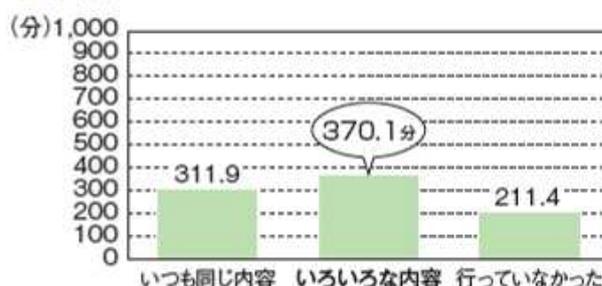
【幼少期の多様な運動経験と、1週間の総運動時間との関係】

小学校入学前にどのように体を動かす遊びをしていたかの回答別に、1週間の運動時間を比較すると、「いろいろな内容」と回答した児童の1週間の総運動時間は、男子で636分、女子で370分と最も長く、次いで男女共に「いつも同じ内容」と回答した児童が、男子で約599分、女子で約312分であった。これに対して、「体を動かす遊びは行っていなかった」と回答した児童が、男子で358分、女子で211分と全国平均を大きく下回っていた。

● 男子



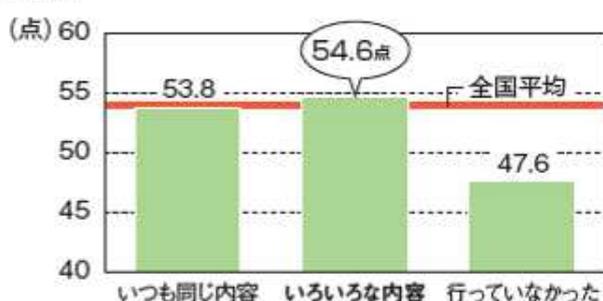
● 女子



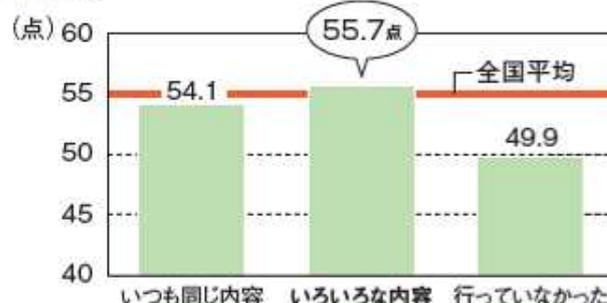
【幼少期の多様な運動経験と、体力合計点との関係】

同様に体力テストの合計点との関連では、「いろいろな内容」と答えた児童の体力合計点の平均は男子で54.6点、女子で55.7点と最も高く、次いで「いつも同じ内容」と回答した男子で53.8点、女子で54.1点であった。これに対して、「体を動かす遊びは行っていなかった」と回答した児童が、男子で47.6点、女子で49.9点と全国平均を大きく下回っていた。

● 男子



● 女子



(2) 体育・保健体育の充実に向けて

体育・保健体育の授業で行う各領域について「楽しかったか」「よくできたか」に対する回答、体育・保健体育授業の中で「できなかったことが、できるようになった」きっかけについての回答等を男女別に示した。

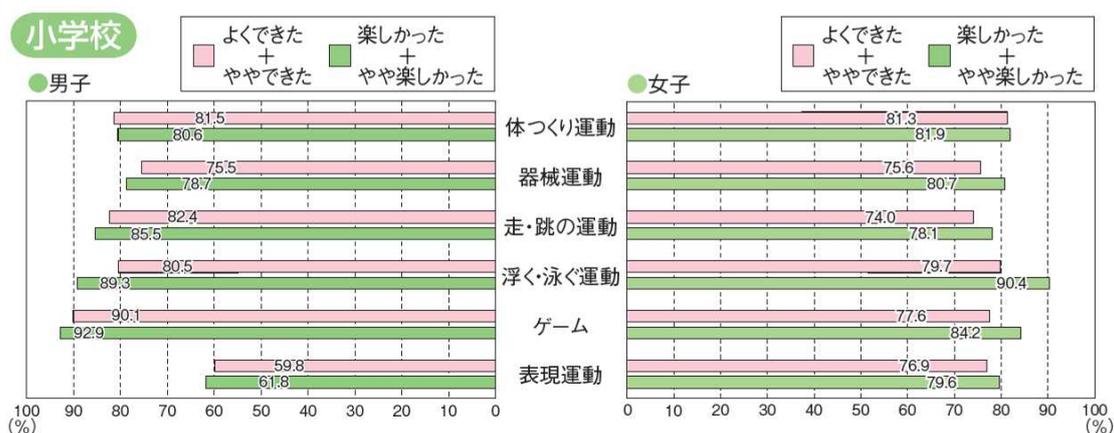
【児童生徒が回答した「楽しかった・よくできた」の領域別比較】

小・中学校ともに、「楽しかった」と回答した領域には概ね「よくできた」と回答している。

●小学校

小学校男子では、「楽しかった」「よくできた」ともに、「表現運動」が低く、「ゲーム」、「浮く・泳ぐ運動」、「走・跳の運動」が高い。

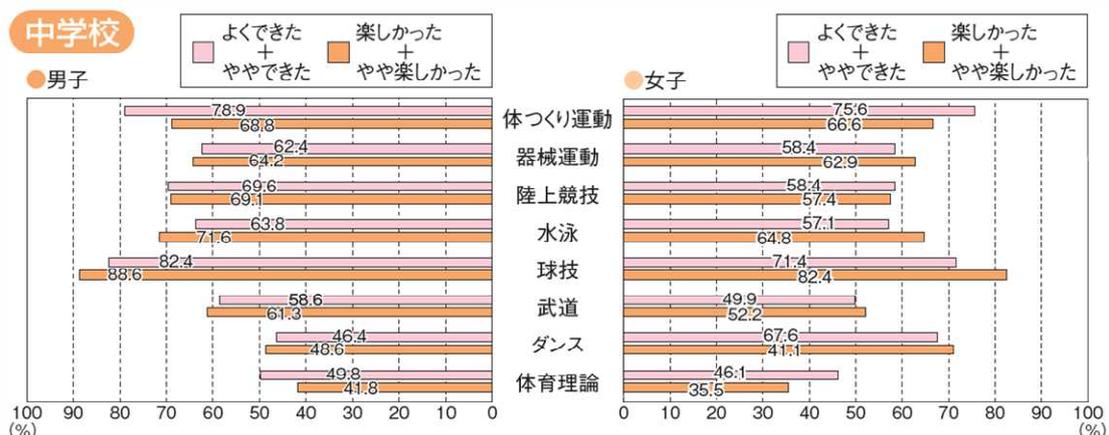
小学校女子では、「楽しかった」「よくできた」ともに、領域間に大きな違いは見られなかったが、小学校の男女を比較すると、「楽しかった」「よくできた」ともに、男子で低い「表現運動」が、女子では高くなっている。



●中学校

中学校では、男女ともに「楽しかった」「よくできた」において、「体育理論」が低く、「球技」「体づくり運動」が高い。

中学校の男女を比較すると、「楽しかった」「よくできた」ともに、「陸上競技」「武道」では女子より男子が大きく高く、「ダンス」では女子が大きく高い。



【できなかったことができるようになるきっかけと体力との関係】

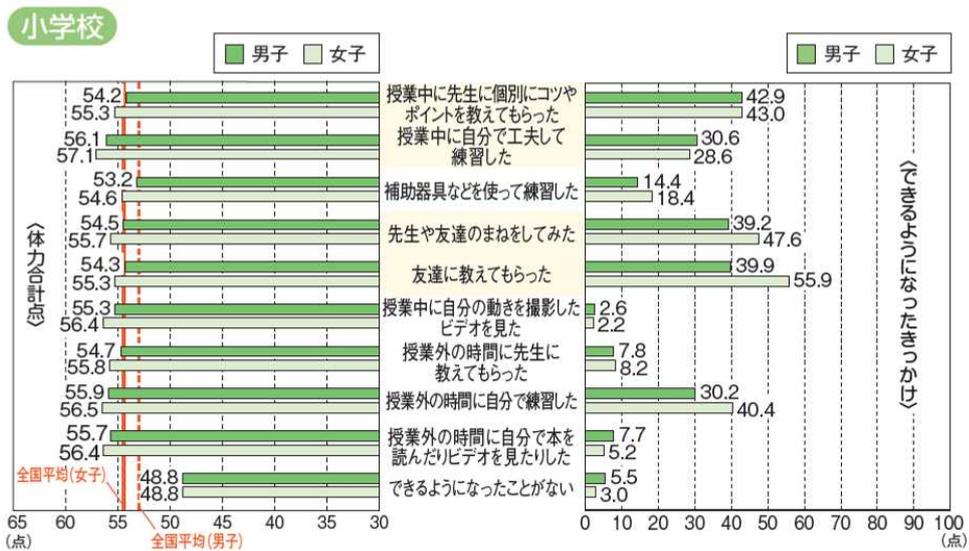
体育・保健体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけと、体力合計点との関係を示した。

●小学校

小学校では、男女ともに「友達に教えてもらった」「先生や友達のまねをしてみた」「授業中に先生に個別にコツやポイントを教えてもらった」の回答が多かった。

男女の回答を比較してみると、女子で特に「先生や友達のまねをしてみた」「友達に教えてもらった」「授業外の時間に自分で練習した」という回答が多かった。

回答傾向による体力の状況をみてみると、男女ともに体力水準の高い児童ほど、「授業中に自分で工夫して練習した」「授業外の時間に自分で練習した」などが高かった。

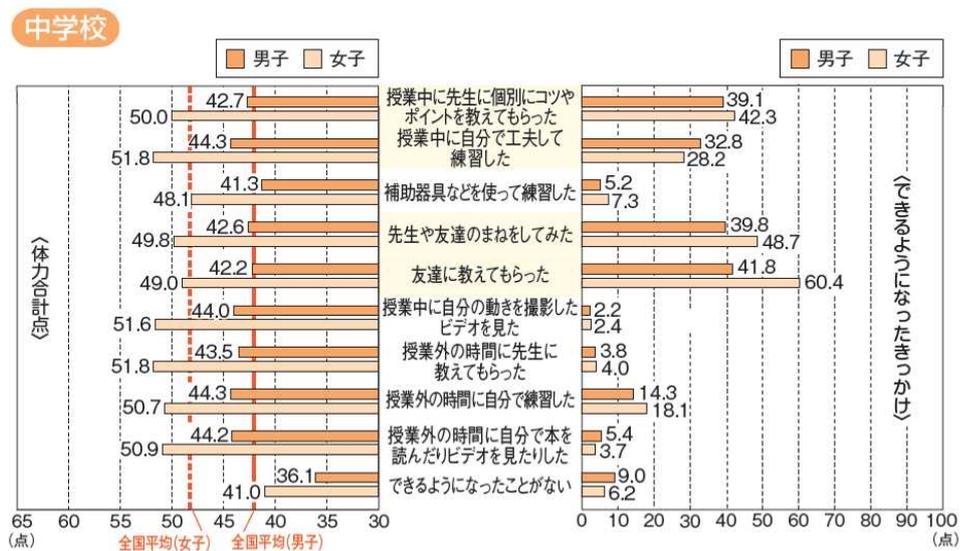


●中学校

中学校では、男女ともに「友達に教えてもらった」「先生や友達のまねをしてみた」「授業中に先生に個別にコツやポイントを教えてもらった」の回答が多かった。

男女の回答を比較してみると、女子で特に「先生や友達のまねをしてみた」「友達に教えてもらった」の回答が多かった。

回答傾向による体力の状況をみてみると、男女ともに体力水準の高い児童ほど、「授業中に自分で工夫して練習した」「授業外の時間に自分で練習した」などが高かった。



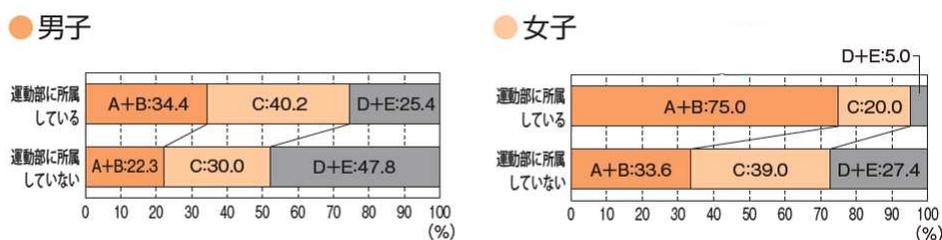
(3) 部活動の充実に向けて

運動部活動に所属する児童生徒の体力の状況と、学校の実施による運動部活動加入率との関係、文化部活動における体力づくりや運動と体力との関係、運動部活動に所属していないものが、運動部活動に参加してみたいと思う条件等について示した。

【運動部活動所属の有無と体力総合評価との関係：中学校】

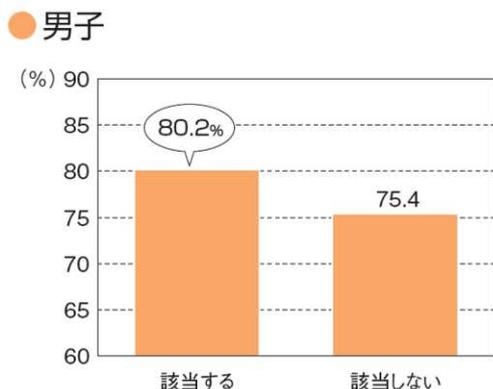
運動部活動に所属している生徒は体力の高いものが多く、低いものは少ない。

特に女子は、運動部活動に所属する生徒の体力総合評価A+B率は、所属していない生徒の2倍以上であり、D+E率は5分の1以下であった。



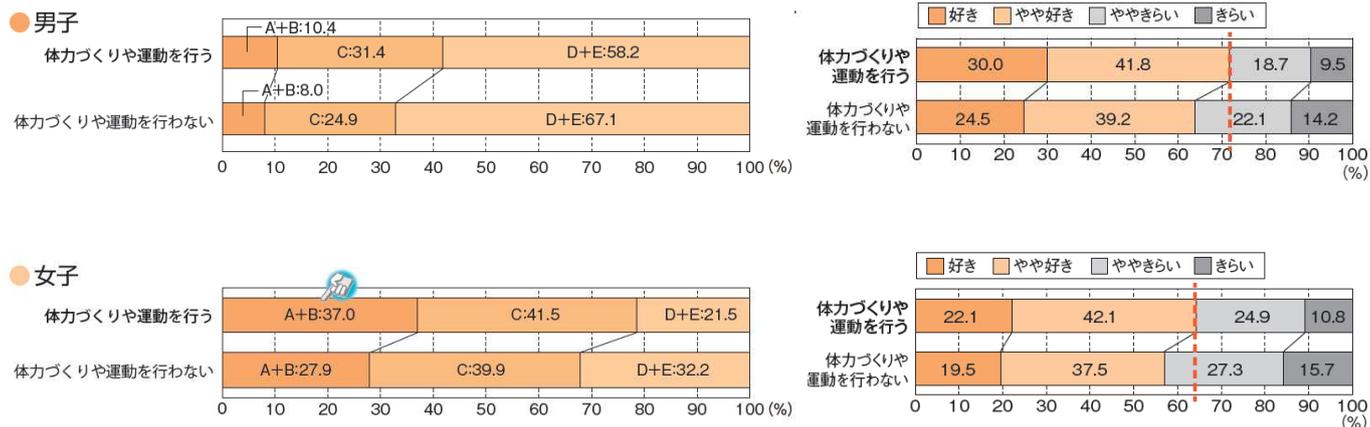
【学校の運動部活動に対する取組と運動部活動加入率との関係】

「より多くの生徒が活動しやすい運動部活動の運営・指導の工夫改善を行った（行う予定である）」と回答した学校は、運動部活動加入率が高い。



【文化部での運動の取組の有無と、体力及び運動やスポーツの「好き・嫌い」との関係】

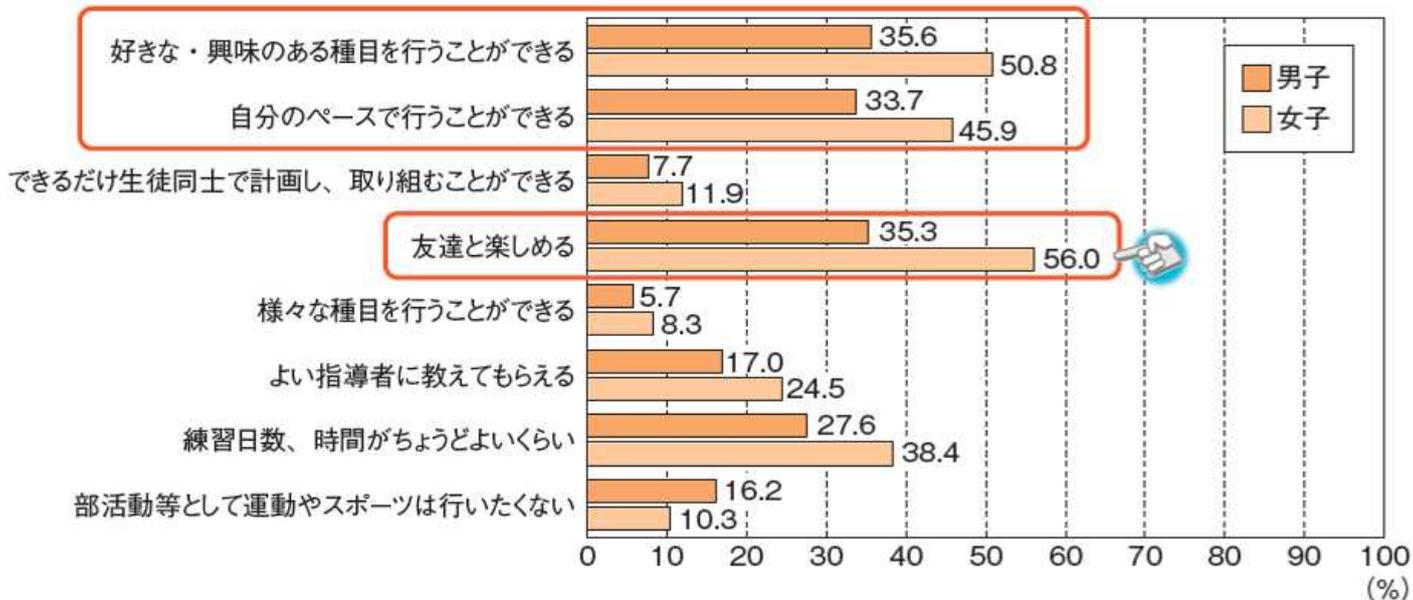
文化部活動において体力づくりや運動を行う部に所属している生徒に体力が低いものは少なく、運動やスポーツを「好き」と回答するものが多い。



【運動部活動に所属していない生徒が運動部活動に参加してみたいと思う条件】

男女ともに回答が多かったのは、「好きな・興味のある種目を行うことができる」「自分のペースで行うことができる」「友達と楽しめる」であった。

男女の回答を比較してみると、女子で特に「友達と楽しめる」が多かった。

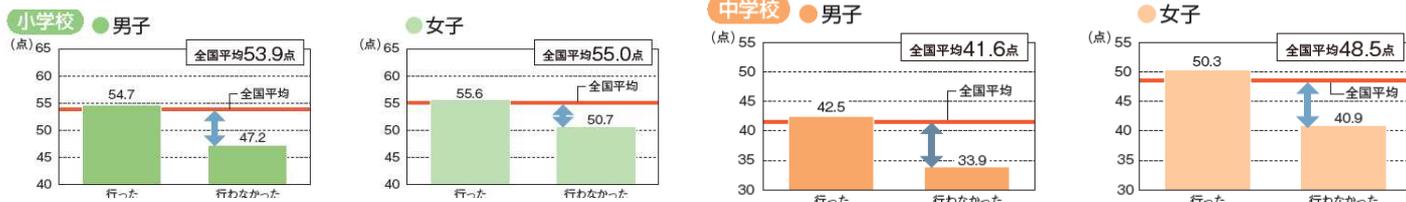


(4) 家庭や地域でもっと運動をするようになる条件整備

休日や長期休業期間中の運動の状況と体力との関係、放課後や休日に運動してみたい場所、家庭や地域による運動の意識づけ等について示した。

【長期休業期間中の運動状況と体力との関係】

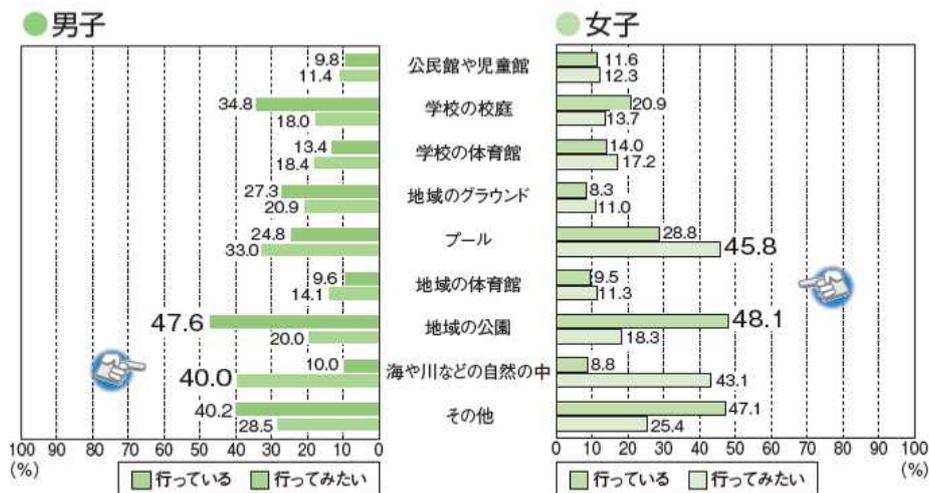
長期休業期間中に運動を行ったと回答したものは、行わなかったと回答したもの比べて体力合計点が高い。



【放課後や休日に運動を行っている場所と行ってみたい場所】

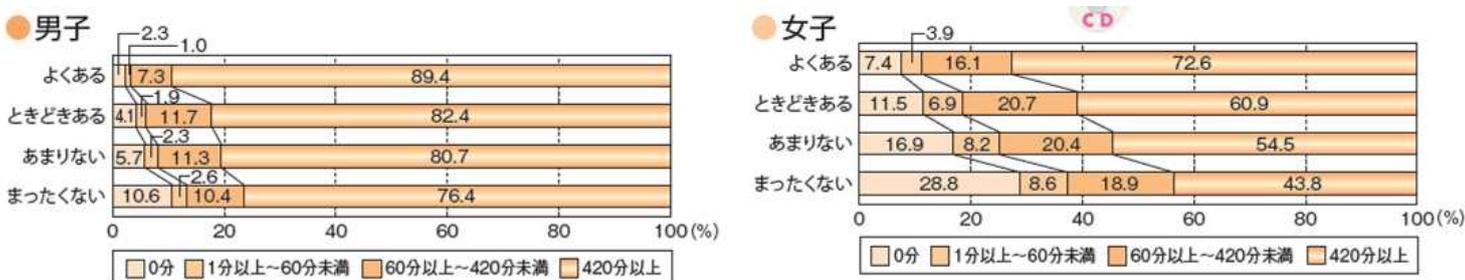
放課後や休日に運動を行っている場所として最も多かったのは、男女ともに、「地域の公園」であった。次に男子では、「学校の校庭」「地域のグラウンド」が多く、女子では「プール」「学校の校庭」が多かった。

また、行ってみたい場所としては、男女ともに「海や川などの自然の中」が多かった。他に男子では、「プール」「地域のグラウンド」が高く、女子では「プール」「地域の公園」が高かった。



【家の人からの運動のすすめの有無と1週間の総運動時間との関係】

家の人から運動をすすめられることが「よくある」と回答したものが最も1週間の運動実施時間が長く、「まったくない」と回答したものが最も少なかった。



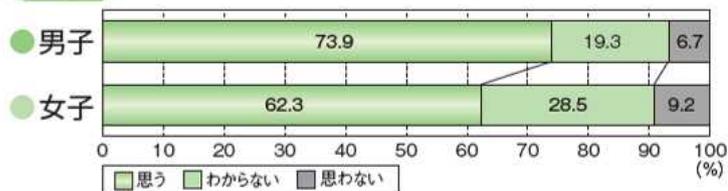
(5) 生涯にわたって運動やスポーツをしようとする意欲を高める

卒業後の運動やスポーツに対する意欲、体育・保健体育授業の楽しさと卒業後の運動やスポーツに対する意欲との関係、家の人のすすめと卒業後の運動やスポーツに対する意欲との関係等について示した。

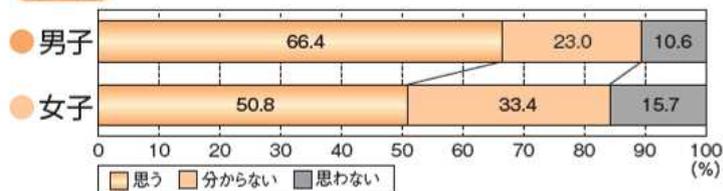
【卒業後の運動やスポーツに対する意欲】

小中学校ともに、卒業後に運動やスポーツを「すると思う」と回答したものが最も多かった。

小学校



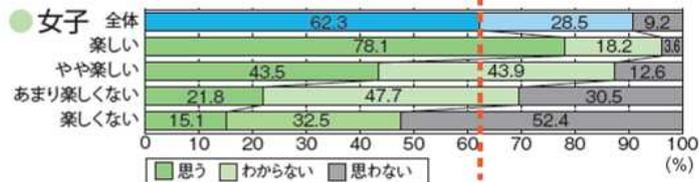
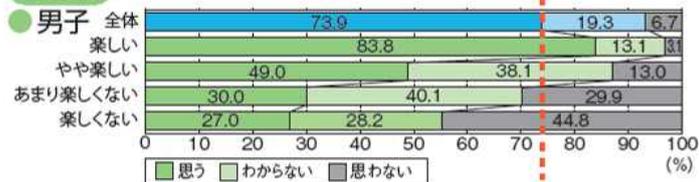
中学校



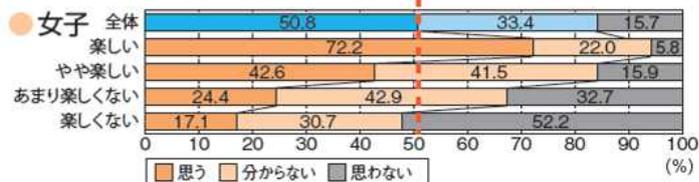
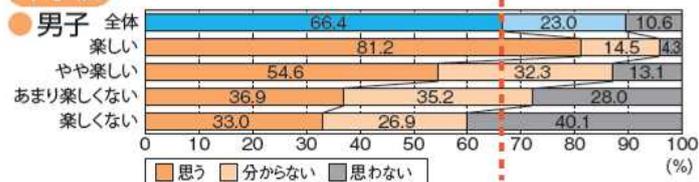
【体育・保健体育授業の楽しさと卒業後の運動やスポーツに対する意欲との関係】

体育・保健体育の授業が「楽しい」と回答している者が、卒業後に運動を「すると思う」と最も多く回答し、「楽しくない」と回答したものが卒業後に運動を「しないと思う」と最も多く回答した。

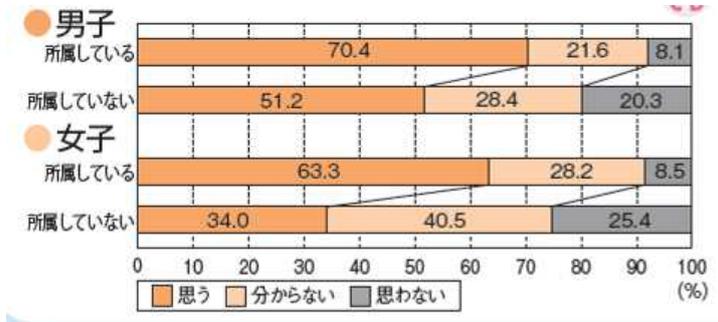
小学校



中学校



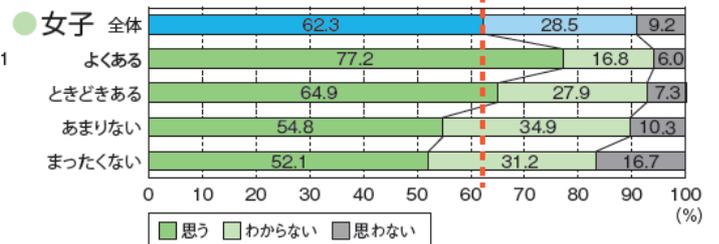
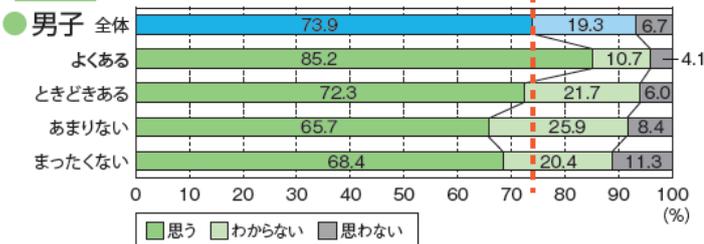
【運動部活動や地域スポーツクラブへの所属と、卒業後の運動やスポーツに対する意欲との関係】
 運動部活動や地域スポーツクラブに所属しているものの方が、卒業後に運動やスポーツを「すると思う」と回答している。



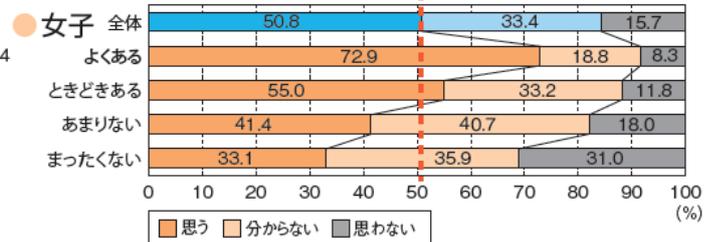
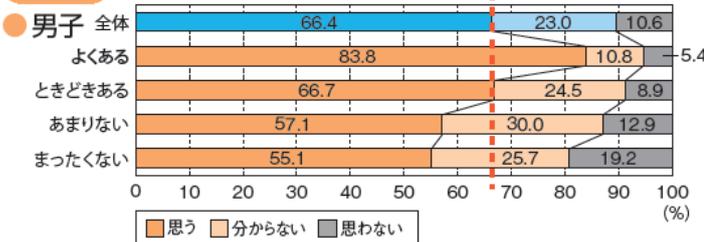
【家の人からの運動やスポーツのすすめと卒業後の運動やスポーツに対する意欲との関係】

家の人から運動やスポーツをすすめられることが「よくある」と回答したものが、最も多く卒業後に運動やスポーツを「すると思う」と回答し、小学校男子を除き、すすめられることが「まったくない」と回答したものが、最も多く卒業後に運動やスポーツを「すると思わない」と回答している。

小学校



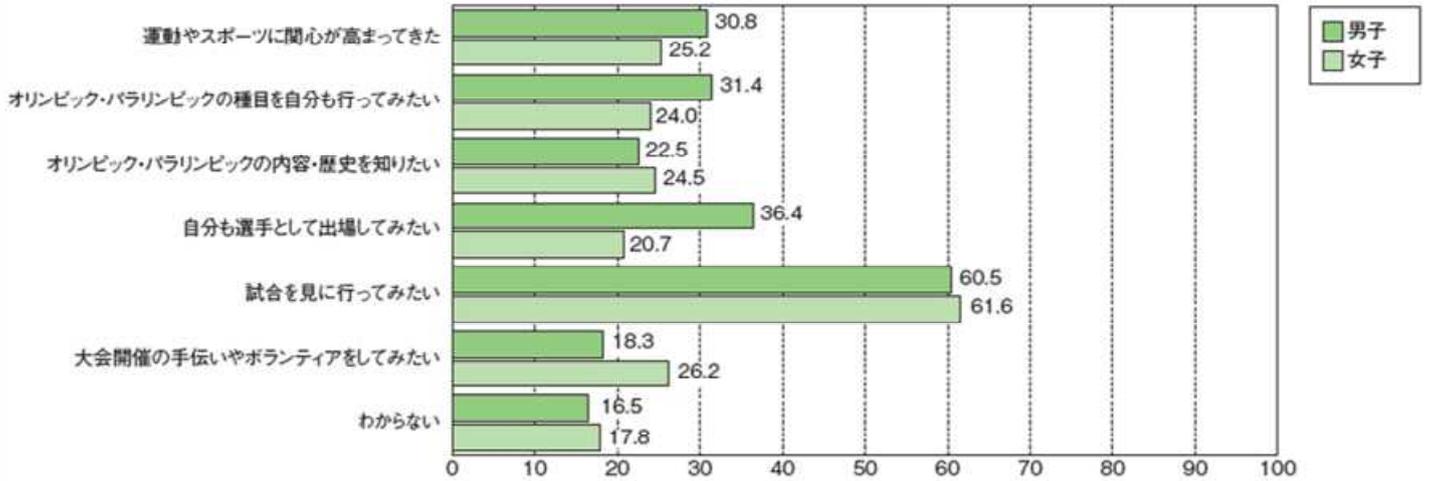
中学校



(参考) 東京オリンピック・パラリンピックに対する意識について

小学校男女、中学校男女の全てにおいて「試合を見に行きたい」と回答するものが最も多かった。

【小学校】



【中学校】

